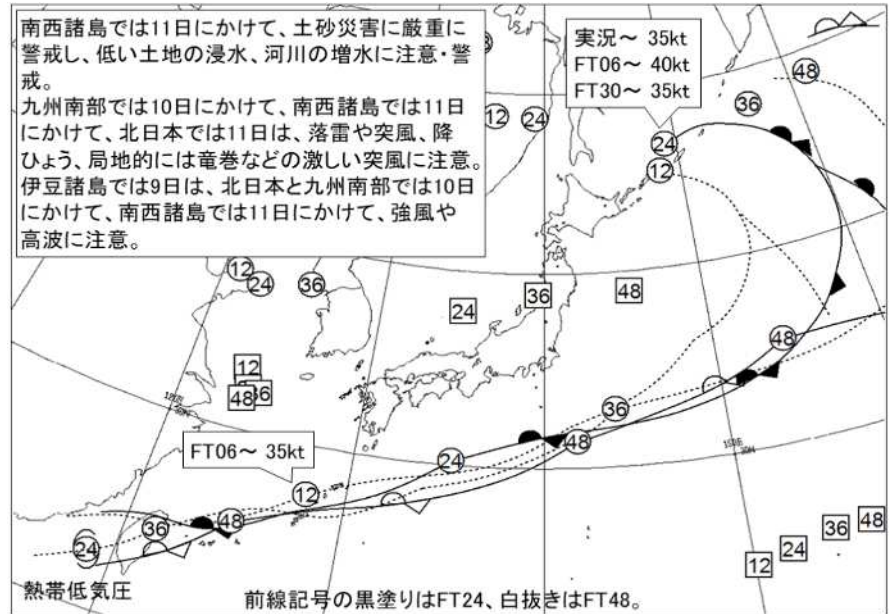


### 1. 実況上の着目点

① 500hPa5760～5820mの強風軸対応の前線が、南西諸島付近～日本の南を通り、日本の東へのびている。前線上の東シナ海には低気圧があって東北東進。南西諸島周辺では雷を検知し、激しい雨を解析。

② 北日本付近の500hPa5520m以下で-18℃以下の寒気を伴う寒冷渦があって東進。前面の北海道付近には、前線を伴う低気圧があって東北東進。前線は日本の東へ進み、9時の解析では①の前線と一体化した。低気圧近傍の北海道地方では強い風を観測。



主要じょう乱解説図

### 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①、②の前線は南西諸島付近～日本の南では、11日にかけてほぼ停滞する。1項①の東シナ海の低気圧は東北東進し、10日にかけて日本の東へ進む。また、10日朝までに南シナ海で発生する熱帯低気圧が台湾付近へ進んで前線上の低気圧となり、11日にかけて南西諸島付近を東北東進する。前線や低気圧に流れ込む850hPa  $\theta_e$  345K以上の下層暖湿気の影響で、大気の状態が非常に不安定となるため、雷を伴った非常に激しい雨や激しい雨が降り、大雨となる所がある。南西諸島では11日にかけて、土砂災害に嚴重に警戒し、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。南西諸島に前線が停滞し、数日にわたって大雨が続き総降水量が多くなることや、対流雲が組織化する可能性に留意。また低気圧や前線の影響により、九州南部では10日にかけて、南西諸島では11日にかけて、落雷や突風、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。低気圧や前線周辺では気圧の傾きが大きく、風が強く吹き、波が高く、しけとなる所がある。伊豆諸島では9日は、九州南部では10日にかけて、南西諸島では11日にかけて、強風や高波に注意。

② 1項②の寒冷渦は、10日にかけて宗谷海峡付近を通過して千島近海に進み、前線を伴う低気圧は次第に寒冷渦の直下となり、10日にかけて千島近海に進む。また、11日は北日本の上空に寒気が流入する。上層寒気や低気圧に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となるため、北日本では、9日と11日は落雷や突風、降ひょうに注意。低気圧や前線の周辺では、風が強く吹き、波が高くなる所がある。北日本では10日にかけて、強風や高波に注意。

**3. 数値予報資料解釈上の留意点** 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項①の前線上の低気圧の位置や発達程度は不確実性があることに留意。

**4. 防災関連事項【量的予報等】** ① 雨量(18時からの24時間)：奄美180、沖縄150mm。

② 波浪(明日まで)：奄美・沖縄4、北海道・九州南部3m。

**5. 全般気象情報発表の有無** 発表の予定はない。